

新 秋 剣 連

発行
秋田県剣道連盟
 〒011-0945
 秋田市土崎港西5丁目11-10
 TEL 018-838-1783
 FAX 018-845-3255
<http://akitakenren.com/>



秋剣連の現状と課題

秋田県剣道連盟 会長 目黒 大作



コロナ禍の中、令和3年度役員会を皆様のご協力のもと無事開催し、本年度の活動を開始すること

とができた。

秋剣連は、全剣連対人稽古感染拡大防止ガイドラインに添った感染対策を徹底、令和3年度のすべての事業、行事を安全、安心に実施するためコロナ担当者を配置、医事顧問との連携のもと、感染動向を注視しながら、対応を行っているが、残念ながらすべての事業を遂行するには至っていない。幸い、剣友から感染者が出ていないことが何よりであり、今後一層の対策の徹底を図っていきたい。

このような厳しい制約の中、全国予選を兼ねる大会については開催し、勝ち抜いた代表校、代表者は、不自由な中でも稽古に励み見事に成果を挙げた。

特に石川インターハイで、秋田商業高校が準優勝。中体連では、神奈川全中で矢島中の土田選手が3位入賞、東北大会では女子団体が勝平中が4連覇を達成した。さらに、秋田県少年チームが三重国体2次予選において、男子優勝、女子準優勝を果たし、男女共に本大会への出場権を獲得した。後日、国体中止の報に選手は無念は如何許りか、しかし、その成果は、将来大きな自信と誇りになると信じる。

さて、近年剣道人口の減少傾向は著しい。このままでは連盟の維持、継続はもとより、次世代への剣道文化の伝承にも影響をきたすのではと危機感を感じる。

本年度の重点事項に、剣道人口減少を最大の課題と位置付け、昨年までの少子化対策委員会を改め剣道活性化対策委員会とし、対象を幼少年から、女子、シニア部門へ拡充し、対策を図ることとした。各部門における新規会員を募ることはもとより、剣道経験者の中断、中止を余儀なくされた方に、再開を促し、生涯剣道への推奨に繋げたい。また、3部門が一体的に連携し、剣道の魅力や活動の喜びを実感できる方策を検討したい。

一方、社会人の剣道の充実に向けて実業団、警察、刑務、消防、官公庁、大学、各高校OB、OG会等々が相互に連携し合いながらの積極的な活動をお願いしたい。コロナ禍の中で人口減少はもとより活動も停滞気味である。今こそ剣友が結団しこの危機を乗り越えたいものである。

終わりに、50回魁星旗大会を先延ばししているが、安全・安心を担保できることが、喫緊の課題である。また来年は秋剣連創設70年、無事に開催できることを祈らずにはおれない。

これからの社会は、コロナとの共存が叫ばれている。本連盟でも会員が、安全・安心に稽古に親しみ楽しむことができるよう十分な対策を図っていきたい。

秋商剣道部インターハイ準優勝までの軌跡

秋田商業高校男子監督 高橋 伸友



令和3年8月9日から12日、石川県いしかわ総合スポーツセンターにおいて、「全国高等学校総合体育大会 輝け君の汗と涙 北信越総体2021」が開催された。本校が秋田県代表として出場し、男子団体準

優勝の結果を残した。本校剣道部は1958年(昭和33年)の第5回大会で優勝し、第6回大会で準優勝している。令和2年度、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、秋田県高等学校総合体育大会が中止され、高校生の最大の目標であるインターハイも中止となった。インターハイにチャレンジできなかった先輩の思いを胸に臨んだ全国選抜秋田県予選会で敗退し、自分たちの甘さと弱さに直面したときから、北信越総体へのチャレンジが始まった。3月末に山形県で行われた錬成会を最後に、学校での練習をいかに充実させるかを考えた。一番重要視したのは基本の見直しである。一本の重みを認識させ、生徒とともに試行錯誤しながら強化を続けた。迎えた全県総体準決勝では、苦しみながらも、全国選抜秋田県予選で苦杯をなめた秋田南高校に、雪辱を果たし、決勝では秋田高校に勝利し、北信越総体への出場権を獲得した。この後全国的なコロナの蔓延により、北信越総体前の貴重な力試しと考えてい

た東北選手権大会の中止が決まり、実戦経験不足をどう埋めるかが課題となった。経験不足を埋めるために、部内戦を繰り返した。私自身も生徒と何度となく対戦した。出場権を得たという安心感からレギュラーチームがBチームに敗退し、その度に自分たちの甘さ、弱さを認識させ、真摯な気持ちで取り組むよう諭すとともに、技術的な改善点を見つけ出し克服するよう徹底した。

北信越総体が始まったが、男子個人戦で上位を目指していた高橋が初戦敗退し、精神面の落ち込みが激しく、非常に心配なスタートであった。団体予選では、本調子が出ない高橋を支える形で前衛陣が奮起し、全員がつなげる剣道で苦しみながらも予選突破を果たした。決勝トーナメントは開き直った高橋が本領を発揮し、前衛陣が作った流れをそのまま勢いとし、決勝進出まで登り詰めた。決勝では九州学院高校に敗退したものの、試合振りは立派で監督冥利に尽きる戦いであった。

ここで、出場した選手を紹介する。
先鋒 三浦 輝優きひろ
(3年 港北スポーツ少年団・秋田市立土崎中学校出身)
長身で懐が深く、突技を得意としている。中心を攻めながら相手が防御し

た瞬間の打突に秀でていた。

【本人のコメント】

私が印象に残っているのは決勝戦に向かうときのことです。相手は2連覇中の九州学院。先鋒は全中で個人団体ともに優勝しており、明らかに自分より格上でしたが、なぜかその時は負けるかもしれないという思いより、勝てるかもしれないという思いの方が強かったことが印象に残っています。結果は自分もチームも負けてしまいました。最後まで自分たちの試合が出来て悔いはありません。

次鋒 福田 樹也たつや
(3年 秋水館)

秋田市立土崎中学校出身) 小柄だが足腰がしっかりしており、爆発的なスピードがある。相手の動作を見極め、雑に出てくるところを頭でしとめるのが得意。

【本人のコメント】

私は予選リーグ1回戦の試合が印象に残っています。相手は近畿大会で個人・団体ともに優勝を飾っているチームでした。試合が始まって不安が消えず、思うように体が動きませんでした。一本を取り、その後も必死に粘って勝つことが出来ました。初戦という緊張する場面でしたが、チームで一本を繋ぐ試合ができたことが心

に残っています。
中堅 萬年 竜也

(3年)

秋田市立秋田西中学校出身

上段の構えをとる。入学から毎日千本の素振りを自分に課した努力家。出頭面を得意としている。上段からの多くの技を持っており、何を打つてくのか予測が難しい。

【本人のコメント】

私の中で一番印象に残っているのは、予選リーグの奈良大学附属高校戦で取った一本です。私の相手は近畿大会の個人戦チャンピオンで、私は試合前から緊張していました。本番はもうやるしかないと思い、決め、剣道人生6年間で最もいい面を打つことができました。

副将 打川 武

(3年 湯源道場)

湯沢市立湯沢北中学校出身

どっしりとした中段の構えからの鋭い面技を得意としている。来るのがわかっているのに打たれてしまうのが彼の面である。

【本人のコメント】

予選リーグを抜けた後の最後の確認の練習が印象に残っています。予選リーグ奈良大附戦では、みんなで繋ぐいい試合ができましたが、正則学園戦

では勝ちを意識しすぎて固まってしまい、課題の残る試合となりました。そのため試合が終わった後の練習で、自分の得意技や攻め方を確認しました。決勝トーナメントでは全員がいい動きで戦うことができたので悔いはありません。

大将 高橋 京太郎

(3年 修武館)

秋田市立飯島中学校出身

秋商剣道部主将として勝利のため力を尽くした絶対的大将。研究熱心で様々な場面に適した技を繰り出すことができる。攻めが厳しく、思わず動かされてしまう。

【本人のコメント】

私は決勝での一本勝ちが印象に残っています。相手は世代No.1とも言われる選手でしたが、決勝トーナメントの勝負がかかった場面で全て勝つことができていたことや、監督からの「爪痕残してこい」という言葉もあり、自分の剣道に自信を持って強気で臨むことが出来ました。最高の舞台で秋田の高橋として名を轟かせることができ、さらに自信になりました。

補員 岩本 創

(2年 修武館)

秋田市立山王中学校出身

相手の特徴を把握するのが得意で、

戦いながら相手の弱点を見つけ出す。技も豊富で相手に合わせた戦いができる。

【本人のコメント】

私が印象に残っている試合は決勝トーナメント1回戦の試合です。ベスト8をかけた戦いでみんな緊張や不安を感じていましたが、試合前のミーティングでここまで来たら絶対に優勝するんだという強い気持ちに切り替えました。そして、チーム全員がずっと練習してきた一本をつなぐ剣道を大将までやり抜き、逆転勝利したことがとても記憶に残っています。

補員 大里 貫太

(2年 日新スポーツ少年団)

秋田市立秋田西中学校出身

体格、身体能力に恵まれ、豪快な技が魅力の選手である。荒削りだが、今後さらに伸びる可能性を持っている。今大会は準々決勝から次鋒として出場した。

【本人のコメント】

私が印象に残っているのは、試合前のミーティングです。私は準々決勝からの出場で緊張していましたが、監督や先輩方、同じチームの仲間から背中を押してもらい、自信を持って試合に臨むことが出来ました。ミーティングでチームの雰囲気良くなり、一丸と

なって勝てたことは貴重な経験となりました。

応援して下さい。ありがとうございます。

コロナ禍における 中体連の活動について

県中体連剣道部会長

畠山 宏良

令和3年度も新型コロナウイルス感染症への不安と対策の中でスタートとなった。

4月、各地区において様々な感染対策を講じながらも、大会を実施することができた。昨年のこの時期は一斉の休校であったことを考えると、地区の大会が開催できたことは大きな成果であった。

しかし、夏の県大会の前哨戦でもある県春季大会(5月15日実施予定)が秋田市の感染警戒レベル引き上げのため、中止となってしまった。春の段階で各学校のチームの力がどれくらいなのかを確認できないまま夏の大会を迎えなければならぬ結果となってしまう。

6月に入り、秋田市の感染警戒レベルも引き下げられ、各地区の予選も無事終わり、7月10日～11日、県立武道館において第70回記念秋田県中学校総合体育大会剣道大会が開催された。感染防止対策に大きな緊張感をもった中での開催であった。また、東北大会（福島県）、全国大会（神奈川県）の実施が決定していたため、1年ぶりの上位大会に繋がる大会としての開催でもあった。大会では、コロナ禍の鬱憤を晴らすかのように、東北・全国大会を目指し白熱した試合が展開された。男子団体を秋大附中、女子団体を勝平中が制し、男子個人は土田剛士選手（矢島中3年）、女子個人は淡路咲来選手（勝平中2年）が制している。東北・全国大会の詳細については、それぞれの報告に紙面を譲るが、コロナ禍にあつて、東北大会優勝、全国大会個人戦入賞を果たすなど輝かしい結果を取められ、秋田県中体連の底力を示してくれた選手の皆さんには心から感謝したい。

その後、秋田県の感染症警戒レベル引き上げもあつたが、9月の地区新人戦直前に警戒レベルも引き下げられ、各地区大会が無事開催された。11月の県秋季大会も無事実施され、今年度の中体連主催の大会は全て終了している。

以上のように、コロナ禍にあつて、常に大会開催の可否判断に迫られた専門部の先生方には、たいへんご苦勞をおかけした。また、今年度も非常に大きな制限の中で真摯に練習に取り組んでくれた選手諸君に心より敬意を表したい。審判の勞をおとりいただいた剣道連盟の先生方、感染防止対策と安心・安全の大会運営にご協力いただいた保護者の皆様、各校監督の先生はじめ大会関係者各位には心より感謝を申し上げます。

今後引き続き中体連へのご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

全国中学校剣道大会 男子個人3位入賞

由利本荘市立矢島中学校

土田 剛士

僕が剣道を始めたきっかけは、五つ上の兄が剣道をしている姿を見て憧れを抱いたことと、自分も剣道を通じて礼儀作法や精神力を身につけたいと思つたことです。

僕は中学校の剣道部に入部した時から、一つの目標に向かって努力することを決意しました。その目標は「全中優勝」です。しかし、その時の僕にとって、全中は遙か向こうにあり、県内の大会で勝つこともそう簡単ではありませんでした。そして、全中優勝の目標から自分の意識が少しずつ下がっていききました。

しかし、小学校時代からお世話になつている、矢島浩心会の先生方やコーチ、OBの先輩方にたくさん稽古をつけていただき、自分の不足している点や弱点を見つめ、その改善に努めることで、少しずつ克服することができ、全国大会への意識を取り戻すことができました。

1年生の時に全県総体に出場した時は2回戦で敗れ、さらに昨年度は新型コロナウイルスの影響で、全県総体とその上位大会がすべて中止となり、とても悔しい思いをしました。2年の夏からは主将として先輩方の悔しい



思いを晴らすという気持ちで厳しい練習を頑張ってきました。

その結果、今年の全県総体で個人優勝し、東北大会と全国大会の出場権を得ることができました。東北大会ではベスト8（5位）という結果で、目標としていた優勝はできませんでしたが、東北大会から全国大会までは、わずか2週間という短い期間ではありましたが、体勢を崩さずに攻める練習を中心に稽古に励みました。

全国大会では、これまで練習してきたことを自信にして、体方面・精神面ともに万全の状態での臨むことができました。僕は2回戦からの出場場で、初戦の前半は少し体が重く感じられましたが、「これまで支えてくださった方々のためにも勝つ」という気持ちで、延長戦で勝利し、気持ちも楽になりました。その後の試合もほとんどが延長戦でしたが、気持ちを強くもって粘り強く戦い抜くことができました。

準決勝では佐賀県神崎中の川内選手に敗れましたが、自分の最大限の力を発揮できた試合だったので、結果にはとても満足しています。

このような結果を残せたのも、小学校時代から一緒に切磋琢磨し、今回一緒に全国大会に出場した小幡暖太君や指導してくださった先生方、いつも

一番側について支えてくれた家族の力があつたからだと思います。

全国大会で3位という成績は一生の宝物ですが、それ以上に、目標に向けて努力してきた過程が、今の僕にとって一番の宝物です。これからも剣道が続いていきますが、常に感謝の気持ちを忘れず、新たな目標を立て、それに向かって日々精進していきたいと思っています。

東北中学校剣道大会 女子団体優勝・四連覇

秋田市立勝平中学校 監督

齊藤 明子

令和3年度東北中学校剣道大会が8月5日(木)～6日(金)福島県郡山市宝来屋郡山総合体育館で行われ、女子団体が優勝し、4連覇を成し遂げることができました。昨年度はすべての大会が中止となり今年度は2年ぶりの開催となりました。大会前から全国的に新型コロナウイルス感染症が猛威を奮い、開催県である福島県でも感染者が増加し、大会ぎりぎりまで開催できるかどうか協議されました。万が一

中止になったらどうしようという不安な気持ちもありましたが、チーム全員で開催できることを信じ、心をひとつにして練習に取り組みました。大会は男女別に2日間、無観客の中で行われました。観客席は試合の順番を待っている生徒のみで、応援の拍手もありませんでした。試合場は選手の氣勢や竹刀の音が響き渡り、緊張感が高まり、今まで感じたことのない雰囲気の中



中の大会となりました。

平成29年度に秋田県立武道館で行われた東北大会で初優勝し、今年度は女子団体4連覇を懸けた大会となりました。生徒は、歴代の先輩からの気持ちを引き継ぎながら今までできました。4月に今年度の目標を話し合った時から『全県優勝・東北大会四連覇』を掲げ、日々の練習に取り組んできました。試合は決勝戦までは危なげなく勝ち進むことができました。決勝は福島県一位の広野中学校でした。チームでつなぐ剣道を心掛けることができ、念願であった優勝旗を手にすることができました。今大会を振り返ってみると、最後の最後まで焦らずに攻め続ける剣道を貫き通すことの難しさを学ぶことができました。

今回、4連覇を達成することができたのは、生徒の頑張りはもちろんのこと、卒業生や保護者、地域の剣道関係者が時間をつくって道場に足を運んで、生徒一人一人に熱い指導をしてくださったおかげです。また、対戦した全ての生徒と切磋琢磨し、真剣勝負で自分の力を出し切って戦うことができた結果だと思っています。たくさんの方に感謝の気持ちでいっぱいです。来年は夢の5連覇を目指して頑張りたいと思います。

女子剣道 活性化に向けて

女子剣道活性化特別委員会

本県の小・中・高校生女子剣士の活躍は、東北はもとより全国的にも、広く認められているところであり、また、選手はもとより、それを支える女子剣士の層の厚さは他県に劣らないのではないかと考えられます。しかしながら、高校・大学を卒業後、剣道を中止・休止する女性剣士が多数存在していることや、東北各県に比べても、女性高段者(六・七段)が少ないということも秋剣連の剣道人口減少に関わる要因となっており、喫緊の課題として解決しなければならぬものと考えております。

今日の日本の剣道界では、女子剣道の充実、幼少年指導における女性指導者の活躍など、女性剣士に対する期待が高まっております。本県におきましても、一旦剣道を中止・休止した女性が、自分の子どもに剣道を勧めることにより、剣道に再度関わりをもち、自身の剣道は再開しながらも剣道応援団となって支援してくれている現状もあります。

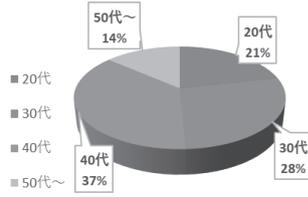
このようなことを踏まえ特別委員会では、女子剣道の活性化により剣道人

口減少を食い止めながら剣道発展に繋げることができないかと考え、令和2年1月県内の剣道に関わる女子を対象にアンケートを実施し、広くご意見をいただきました。その後、このアンケート結果をもとに、令和2年2月9日（日）、会長、理事長、女性剣道指導者11名による第1回女性剣道活性化委員会を開催いたしました。さらに、3月7日（土）に第2回委員会の開催を計画しましたが、あいにくのコロナ禍により延期とさせていただきます。コロナの状況が落ち着き次第、委員会を開催し、女子剣道活性化のための方策を探りたいと考えております。

今回は、実施したアンケート結果の概略を掲載し、県内女子剣道の状況を紹介いたします。

アンケート回答者 計67名

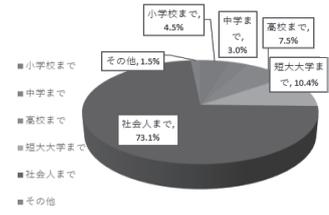
1-1 年代



No.	年代	回答数	割合
1	20代	14	21.5%
2	30代	18	27.7%
3	40代	24	36.9%
4	50代~	9	13.8%
計		65	100.0%

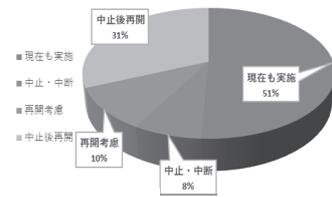
※無回答2

1-2 剣道経験



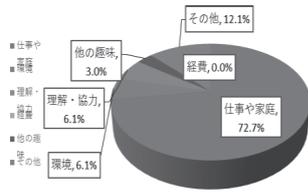
No.	区分	回答数	割合
1	小学校まで	3	4.5%
2	中学まで	2	3.0%
3	高校まで	5	7.5%
4	短大・大学まで	7	10.4%
5	社会人まで	49	73.1%
6	その他	1	1.5%
計		67	100.0%

1-3 剣道実施状況



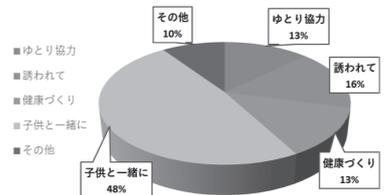
No.	区分	回答数	割合
1	現在も実施	34	50.7%
2	中止・中断	5	7.5%
3	再開考慮	7	10.4%
4	中止後再開	21	31.3%
計		67	100.0%

2 剣道を中止した理由



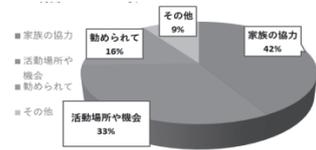
No.	区分	回答数	割合
1	仕事や家庭	24	72.7%
2	環境	2	6.1%
3	理解・協力	2	6.1%
4	経費	0	0.0%
5	他の趣味	1	3.0%
6	その他	4	12.1%
計		33	100.0%

3 剣道を再開したきっかけ



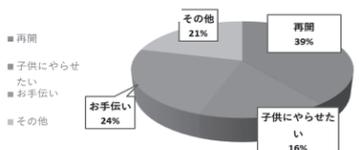
No.	区分	回答数	割合
1	ゆとり協力	4	12.9%
2	誘われて	5	16.1%
3	健康づくり	4	12.9%
4	子供と一緒に	15	48.4%
5	その他	3	9.7%
計		31	100.0%

4 剣道を再開するのに必要な事



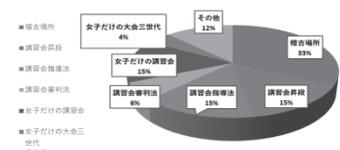
No.	区分	回答数	割合
1	家族の協力	18	41.9%
2	活動場所や機会	14	32.6%
3	勧められて	7	16.3%
4	その他	4	9.3%
計		43	100.0%

5 今後の剣道との関わり方



No.	区分	回答数	割合
1	再開	15	39.5%
2	子供にやらせたい	6	15.8%
3	お手伝い	9	23.7%
4	その他	8	21.1%
計		38	100.0%

6 活性化のために必要な事



No.	区分	回答数	割合
1	稽古場所	37	32.5%
2	講習会昇段	17	14.9%
3	講習会指導法	17	14.9%
4	講習会審判法	7	6.1%
5	女子だけの講習会	17	14.9%
6	女子だけの大会三世代	5	4.4%
7	その他	14	12.3%
計		114	100.0%

※複数回答

まとめにかえて
アンケート結果を分析してみると課題解決のための多くの手がかりが内在しているように思われます。

例えば、「剣道を再開することを考慮中」の10%の人にどのようにしたから剣道に関心をもってもらったことができるのかは、「3 剣道を再開したきっかけ」の中にヒントがあるように思われます。また、「2 剣道を中断した理由」の72%が、仕事や家庭が原因となつていますが、その障害を取り除くための手掛かりは、「4 剣道を再開するために必要なこと」の中にあるようです。

さらに、剣道をやって良かった、だから剣道を自分の子どもにやらせたいという意見や、この機会に剣道に協力したりお手伝いをしたりしたいという剣道応援団の存在も確認でき、心強い限りです。今後、アンケート結果を活用しながら議論を深め、女子剣道の活動の輪を広げるための方策を明らかにしていきたいと考えております。

(文責：高橋亮)

コロナ禍における秋田県
剣道連盟の対応について



秋田県剣道連盟
副会長
伊藤 忠善

1 はじめに

国内で新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）が初めて確認されたのが令和2年1月であり、この新型コロナが全国に感染拡大するにつれ感染防止対策としてスポーツやイベント等が中止や延期、縮小されるようになった。

秋剣連においても感染防止対策として従来の大会や審査会等の中止や延期等の対応をとった。その概略について、令和2年度を中心に述べたいと思ふ。

2 稽古の中止について

（令和2年4月6日）

4月、新年度が始まったものの新型コロナの感染拡大傾向が急激に進み、緊急事態宣言発令前日、全剣連より当分の間、稽古を中止するよう、通知（注1）が出された。内容は、「一部の地域で剣道の稽古によるクラスターが発生し、それにより急激に感染が広がった。剣道の稽古はクラスターの発生リスクが非常に高いため、稽古の中止を

要請する」というものであった。

早速、ホームページ掲載や郡市剣道連盟・加盟団体（以下「郡市剣道連盟等」という。）に稽古の中止をお願いした。以来、全県において幼少年から大人まで稽古ができなくなった。また、大会や審査会などの事業も同様にならなくなりました。

3 稽古の再開について

（同年6月4日）

6月4日に全剣連からの文書（注2）が届き、約2か月の中断を経てやっと稽古ができることとなった。併せて稽古再開にあたってのガイドライン（注3）も制定された。

その概要は、剣道の稽古について、
○3密に該当する。
○口からの飛沫飛散が多い。
○マスクとシールドを着用する。
○鏝鏡り合いは避ける。

等が示され、ガイドラインを要約した「概要版」を作成して会員をはじめ郡市剣道連盟等に配布し浸透を図った。また、3月から休止していた秋剣連の定例稽古会も7月9日再開した。

4 審査会について

（同年6月22日）

対人稽古再開後の6月22日、全剣連より審査会のガイドライン（注4）と全国審査会の実施日程等（注5）が発表された。これにより秋剣連の審査会も大きく進展した。

8月1日、今年度最初の段級位審査を由利本荘・にかほ剣道連盟で行った。地元会長はじめ役員・係員等の周到な準備と機敏な行動により安全を最優先した審査会が円滑に実践され、以後の審査会のモデルケースとして全県に紹介した。

また、突然のクラスターの発生により急遽の延期があった地域もあったが、無事に令和2年度全審査会の日程を終了することができた。

5 大会の開催について

（同年8月27日）

段級位審査会の日程も揃いつつあつた8月27日、全剣連より大会におけるガイドライン（注6）が示され、11月7日に今年度最初の大会「全県小学生、中学生学年別剣道大会」を開催した。小学生354人、中学生332人合計686人の参加選手で、引率者や審判・役員等を合わせると約800名規模の大会となった。感染防止対策である3密の回避、手指消毒やマスク着用、人的距離の確保、換気の励行等に配慮し大会を行った。大会時間が大幅に遅れ終了したのは午後7時近くになつてしまつたが、その後、感染者の報告もなく終了できたことは、コロナ禍での大会を開催する上で大きな自信になつた。

以後は、令和3年1月30日の全国高校選抜県予選会、同年2月11日男女の

全日本予選会を行い、令和2年度の大会は以上の3回のみ開催にとどまった。また、魁星旗大会は2年連続で中止となり、代替として「2021魁星旗秋田県高校剣道大会」を3月30日に行つた。

6 終わりに

令和2年の新型コロナの対応措置を振り返り、連盟会員、剣友等が各ガイドラインを確実に遵守し実践した結果が今日までの感染防止につながつたものと考えている。今後もガイドラインを遵守し、一人ひとりが感染防止対策と体調管理をしっかり行い、体調の悪いときは無理をせず、「人につきさない、人からもらわない」という心構えをしっかりと持った行動を取るようにお願いする。

※参考：全剣連発出文書

注1 新型コロナウィルス感染症の集団発生を防止するためのお願い（通知）（令和2年4月6日付）

注2 「対人稽古自粛のお願い」の解除（令和2年6月4日付）

注3 対人稽古再開に向けた感染拡大予防ガイドライン（令和2年6月4日付）

注4 審査会実施にあつた際の感染拡大予防ガイドライン（令和2年6月22日付）

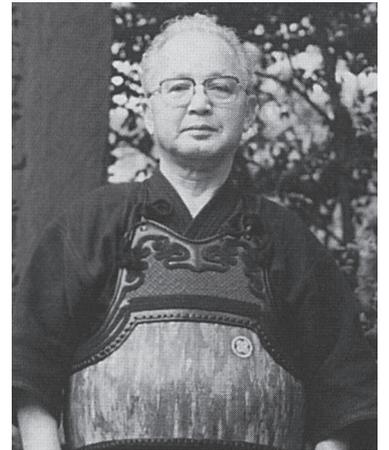
注5 今年度夏以降の審査会について（令和2年6月22日付）

注6 主催大会実施にあつた際の感染拡大予防ガイドライン（8月27日付）

恩師への想い



秋田県剣道連盟 副会長 淡路 芳和



私の剣道人生は、昭和40年4月、羽城中学校に入学する際に、兄から、剣道部の主将が優しい思いやりのある人なので剣道部に入学したら、と言われ入学したのが始まりです。3年生から竹刀の握り方、摺り足などを教わりました。当時の中学校の監督の先生は、3年間で1回も練習場に顔を出すことがなく、稽古の計画から試合の選手選考まで全てを自分達で行っていました。3年生の春頃に、井川中学校に故伊藤徳次郎先生が校長でいることを知り、毎週土曜日、自転車に防具を積み2ヶ月位素振りの教えを頂きに通いました。その後、形のないチャンバラ剣道をぶら下げて、昭和43年4月に秋田市立秋田商業高等学校に入学して意気揚々と当然のごとく剣道部に入部しました。同期の入部生は、私を入れて14名でした。その剣道を目のあたりにし、レベルの違いにただただ驚いたことを覚えております。また、私一人だけが汽車通学でした。

校長に就任され、その1年後に創立50周年記念式典を行い昭和50年3月に退職され、後に秋田市泉に内山道場を開かれ秋田県の幼少年剣道発展にご尽力されました。また、故範士加藤正治先生からは、ある日、私が洗面所であい・洗顔をしていたとき、「商業の剣道は南秋の人達で築かれているので、3年間やり遂げなさい」と励ましのお言葉を頂きました。その言葉が私の大きな支えとなりました。新監督として赴任された目黒大作先生からは、手取り足取り親切丁寧に基本を教えていただきました。それが、激しい日々の始まりでした。それをつらいつ思ったことは一度もありませんでしたが、構えて打てない気のあせりを日々感じていました。また目黒先生からは、人並みになるために稽古を頂くときの掛かり方を、何度となく教えていただきました。目黒先生の稽古が1時間半、その終わり頃になると、加藤先生が稽古にいらして、その1時間後に内山先生が稽古にいらつしやると

いう状況が続き、お陰様でやつとこのことで2年生の秋頃から選手として時々試合に出してもらえるようになりました。これは、先生方からご指導頂いた賜物と感謝しております。昭和46年3月、秋田商業を無事卒業し、剣道からも一緒に卒業する考えでした。しかし、ある日突然、秋田商業の地元の先輩である館岡昭さんから電話を頂き、地元でスポーツ少年団として小学生と中学生に剣道を指導するので直ぐに昭和公民館に来るようにと声を掛けられました。これが、社会人としての剣道の始まりです。館岡昭先輩は、秋田県で初めて高校インターハイ剣道競技で全国個人3位になった方で、加藤先生が体調を崩されたとき、1年間秋田商業の臨時コーチを務められていました。館岡昭先輩からは、小中学生の稽古後、必ず20分位個別に稽古を頂き、社会人として通用する立ち姿、構え、足捌き、打突の機会等、社会人としての剣道の在り方を教えて頂きました。この教えを実践する場が、五城目町の畑澤医院院長、故畑澤實先生との稽古でした。先生にはよく声を掛けて頂き、稽古後には剣道談議に花を咲かせました。また、郡市連の理事長を務めていた時には、会長でいらした故鐘喜裕会長から、組織と規則、運営の在り方、稽古の大切さなど語り尽くせない程の教えを頂きました。



今私がこのように剣道に携わるこ

お陰と感謝しておりますが、特に、目黒大作先生と館岡昭先輩からご指導を賜ったことが私にとって幸運だったと心から感謝しております。そして、この教えを次世代の子供達に伝えていくことが私の剣道人生の務めと感じております。最後にになりましたが、広報委員会から、この度の依頼を賜りましたことに心からお礼を申し上げますとともに、秋田県剣道連盟の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

東北総体を振り返って



理事長

木浪 恒二

令和3年8月21日に第48回東北総合体育大会(ミニ国体)剣道競技が寒河江市民体育館で開催されました。昨

年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった本大会ですが、今年は厳重な感染予防対策のもと、少年男女と成年女子の部が行われました。以下、各部門における本県選手団の活躍ぶりを報告します。

少年男子

直前に開催されたインターハイで団体2位という見事な成績を取めた秋田商業高校3名と秋田南高校3名で構成されたチームは、前評判通りの実力を発揮し、5戦全勝で6大会ぶりの優勝を飾りました。僅差の試合もありましたが、正攻法の技を中心とした、本県の代表にふさわしい攻めの剣道は、他県の役員からも高い評価をいただきました。

少年女子

秋田北高校3名、秋田商業高校2

名、能代高校1名の3校で構成され、1、2年生5名という若いチームで大会に臨みました。試合は混戦となりましたが、3勝2敗で2位の成績を残しました。中でも唯一の3年生である、主将で大将を務める佐藤(能代)は、後半、勝負のかかった試合で3連勝し、本県チーム国体出場権獲得の原動力となりました。チームワークで勝ち取った国体の出場権でした。

成年女子

ここ数年苦しい戦いが続いてきた成年女子は、先鋒の渡邊(秋田県庁)が代表決定戦で2勝をあげる大活躍で、3勝2敗の結果を残しました。残念ながら僅かな勝者数の差で順位は4位となりましたが、大健闘と言えましょう。選手同士が連絡を取り合い、日程を調整しながら稽古の機会を増やす取り組みが、今回の成績に繋がりました。今後に期待を持たせる戦いでした。

本県は総合順位でも優勝した青森県に1点差の2位に食い込み、コロナ禍においても地道に努力を続けてきた成果を示すことができました。ただ、残念であったのは、大会後に三重国体の中止が発表され、少年男女の国体出場が叶わなかったことです。辛い思いをした選手たちには、今回の好成績を成長の糧として前進してもらい

たいと思います。そして、後に続く後輩たちには、秋田の剣道を引き継ぎ、全国の舞台で活躍できるように稽古に励んでくれることを期待します。

以上、東北総体での本県選手団の健闘をお伝えいたしました。

県剣道連盟 稽古会について

大野 晃

私が毎週木曜日に行われる稽古会へ参加してから、約2年が経ちました。きっかけは、七段合格を目指すため



でした。審査会までに目黒大作範士と高橋亮教士をはじめ、多くの先生方に稽古をつけていただき、自分の弱点を知らうと思つたのです。

2019年、初めての七段挑戦は不合格となりました。まだまだ稽古不足だ、そう感じていました。

2020年、新型コロナウイルスがまん延し、稽古会も中止を余儀なくされました。再開された後も稽古中のマスク、フェイスガードの着用が義務付けられ、戸惑いや苦しみを感じながら稽古となりました。そして、その年の昇段審査への参加は全て断念することとなりました。

そのような状況下で、稽古会へ参加



することの姿勢に変化がありました。目標だけに向かつていくのではなく、目標の先にどういう剣士になりたいのかを、意識するようになりました。これは、稽古会に参加したおかげだと思っています。

県剣道連盟稽古会には、普段の稽古では出来ない経験をさせていたいただいていると思います。その経験を、コロナ禍の今、以前のように多くの剣士の方々と分かち合えないのが残念ではありません。コロナが終息し、また活気に満ちた稽古会が出来ることを願っております。

秋元 かわり

私たち女子部は、稽古会の開催や参加の有無を、グループラインで連絡を取り合っており、現在19名の会員がライン登録をしています。メンバー構成は強化選手が大半を占めています。強化以外の会員にも積極的に声を掛け、誰でも気軽に稽古に参加できるように配慮しています。その成果か、最近湯沢や大館などの遠方から来る会員や、久しぶりに竹刀を握る会員の参加も得られるようになってきました。一方で、仕事や家事、育児などが忙しく、思うように参加できない会員が多くいるのが現状です。

稽古内容は、準備運動、素振り、基本技の練習、掛り稽古、地稽古など、一通りの練習を限られた時間の中で効率良く行っています。

今はまだ、強化選手が中心の少人数での稽古会ですが、今後はいわゆる愛好者と呼ばれる女子会員も参加しやすい稽古会になるよう工夫していきたいと考えています。

女子の稽古会を活性化していくためには、職場や家庭の理解と協力が不可欠です。会員同士が協力し、意見を出し合いながら、この課題を克服していきたいと考えています。

今後とも、ご指導よろしく願います。



大館北秋剣道連盟の稽古状況

大館北秋剣道連盟 会長 佐々木 寛

新型コロナウイルス感染症の蔓延にあつて当連盟会員達の職場でも、各種大会や講習会等、人が集まる所への参加を自粛するように通知があり、コロナ禍において古や各種行事へ参加しづらい環境になっております。しかし、このような中にあつても、全剣連の新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインに沿って、各地域・団体でそれぞれ工夫をしながら

ら稽古に励んでおります。以下「一般の部」女子部「幼少年の部」の各代表者から現状報告をいたします。

【一般の部稽古状況】

● 定例稽古会

(水曜日 大館市剣道協会)

大館東中学校剣道場

午後7時30分～午後9時

(木曜日 北秋田市剣道協会)

合川中学校剣道場

午後7時30分～午後8時30分

参加者は、それぞれの協会員

一般約10名、中学生数名

● 稽古内容

主に一般の地稽古が中心だが、昇段審査や各種試合の参加に向けて、基本稽古及び立会いを組み入れている。

● 稽古の目標

(1) 幼少年に対して正しい剣道の指導が行えるよう、自ら基本技の修練に励む。

(2) 取得した称号及び段位にふさわしい剣道を実践しながら、さらに高段位の技倆を目指す。

(3) 生涯を通じて続けられるよう、心身の健康づくりの一環として剣道に取り組む。

● 指導者 小笠原 聡

〔女子部稽古状況〕

●定例稽古会
毎月1回程度開催（不定期）

●稽古内容
毎回目標を設定し、①素振り ②切り返し ③基本技 ④応じ技 ⑤掛り稽古 ⑥稽古、といった内容で、打突の冴えや手の内を工夫して、強い打ちを意識しながら稽古をしている。コロナ禍ではあるが、全剣連ガイドラインののちとって、個々の目標に向け継続している。育休明け4名が間もなく



木曜会の稽古風景



女子部のメンバー

復帰。原則として男子禁制だが、メンバーの家族の小・中・高校生のみ参加を認めている。

- 参加人数 毎回6名程度
- 指導者 田山 恵子

〔幼少年の部稽古状況〕

北秋田市剣道協会

- 定例稽古会

火曜日 合川剣道教室（合川中学校 剣道場）

午後7時～8時

水曜日 鹿泉館（北秋田市武道館）

午後7時～8時30分

金曜日 中学生剣道教室（北秋田市 武道館）

午後6時30分～8時30分

土曜日 鹿泉館（北秋田市武道館）

午後4時～6時

- 稽古内容

子どもたちには生涯にわたって剣道を続けてほしいという思いから、基本を中心とした稽古を行っている。また、各種大会や錬成会等にも積極的に参加し、小さな成功体験を積み、剣友の輪を広げることで、中学校でも剣道を続けられるよう意識付けに取り組んでいる。

- 参加人数

生徒 16名（小学1～6年生）

指導者 7名

- 今後の課題

（コロナ禍における稽古会開催等）

新型コロナウイルスの影響により、稽古自粛、大会の中止が続いている。協会としては市民大会や連盟内の定期的な幼少年交流、道場内大会などを工夫して実施することで子どもたちが目標を持って稽古を続けられるよう努めている。今後も感染症対策に十分留意のうえ、日々稽古が行えることに感謝しながら、一人でも多く剣道の大好きな子を育てられるよう幼少年

指導に尽力していきたい。

- 指導者 三國 佳紀

大館市剣道協会

大館市の幼少年剣道は現在2団体が活動している。今回は私が所属する桂城少年剣友会の活動を紹介する。当団体は大館市立第一中学校武道場会場に、代表である戸田恒夫先生の指導のもと、週3回（月、水、土曜日）活動している。卒団生が子どもと一緒に剣道を再開する（巻ではリバ剣と言う



鹿泉館の練習風景



桂城少年剣友会の練習風景

●指導者 金 杏奈

そうであるが、ケースも見られ、大人のほうが稽古に熱が入ることもある。市内には17校の小学校と9校の中学校があるが、剣道部のある中学は2校に限られ、小学生が中学でも続けられることを視野に入れると、剣道は選ばれにくく、そして勧めにくい現状である。現在は団員5人、チーム編成も難しい状況ですが、剣道が好きな子ども達を中学剣道につなぐこと、卒団生が戻る場所を守ることが、半世紀続く団体として使命感をもって取り組んでいきたいと思っている。

能代山本剣道連盟の稽古会について

船越 俊幸

オリンピック開催の今夏、制御不能状態と言われた感染力の強い新型コロナウイルスも、11月現在ワクチンの効果なのか劇的に感染者数が減少している。今冬の第6波が危惧されるものの、コロナと折り合う社会への兆しが見えてきた。中国武漢市のロックダウンが、世界に衝撃を与えてからもうすぐ2年。新型コロナウイルスの影響は、

対人競技である剣道も感染防止が最優先され稽古の機会が大幅に減ってしまった。

例年、当連盟の稽古会は、全体が集う1月寒稽古及び7月土用稽古会をそれぞれ4日間、定例の稽古会は、能代市総合体育館格技場で毎週木曜日19時から21時までとなっている。スポ少、学校稽古後の小中高校生が参加し、木内直幹先生を中心とした連盟の先生との稽古姿があり、その後大人同士の地稽古と続いていた。20人程の参



加ではあるが格技場が狭く感じられる程活気ある稽古が行われていた。しかし、ここ一年余りは稽古自粛が続き、ほぼ数名の稽古となっている。先日の稽古会参加者は7名。田村信悦先生指導の下、日本剣道形に始まり、基本稽古、かかり稽古、地稽古と続いた。参加者が少しずつ増え始め、以前の活気を取り戻しつつあるように感じている。

能代山本郡の人口は、令和3年9月現在75,789人、うち65歳以上は32,460人で高齢化率42.8%、18歳以下は8,197人で10.8%である。剣道人口は、一般連盟会員は54名、18歳以下は高校生2校15名、中学生4校30名、スポ少は5団体38名計83名となっている。高齢化が進む一方、スポ少、中高生の団部員も減少傾向となっている。コロナが収束したとしても、少子化は長期にわたる最も深刻な社会問題と言わざるを得ない。当連盟では、その対策の一端として、2018年8月初心者及び、経験者の底上げを目標として剣道体験イベントを開催した。総勢40名近い参加があり、盛會裡に終わることができた。剣道経験保護者からも剣道を懐かしむ声もあつた。今後は、是非継続的に開催し剣道人口の底上げを目指したい。

おわりに、当連盟は櫻井照夫事務局長を中心に、若い会員の結束が強い。このエネルギーを武器に、引き続き加藤美喜夫会長を先頭にできる行事を積極的に行いこの地域を盛り上げて行きたい。

七段合格



佐藤 邦男

去る、8月21日に新潟県上越市にて行われました剣道七段審査会におきまして、七段に合格いたしました。

これは、偏に神武館の和田先生や県立武道館の通年剣道教室の目黒先生をはじめ、様々な先生方からのご指導の賜物と感謝しております。

私は、中学・高校と剣道部で活動した後は40歳中頃まで一切稽古せず、いわば「リバ剣」と言われる一人です。

剣道を再開した当初は、私自身の頭の記憶に身体がついていかず、ちぐはぐな動作でしたが、ある先生から「当面は面打ち専門に稽古してはどうか？」との提案を受けまして、その後、一年間程は面打ちを中心に稽古いたしました。その結果徐々に、気持ちと身体が一致するようになりました。

現在は、稽古場所につきまして、一つに限らず、可能な限り出稽古も行うようにしております。特に、住所を離れて単身赴任することとなった際には、関係の方々の配慮から、赴任先でも存分に稽古ができる環境が続きま

した。コロナ禍が収束した後はまた出稽古に向かいたいと考えております。今回の審査にあたり、次の事柄について特に注意しました。

一、常に姿勢正しく構えること。
二、左手は臍前としてむやみに動かさないこと。

三、呼吸は、吐くを薄く長く、吸うを短くすること。

四、立ち合いにおいて相手と対峙して一歩も退かないこと。

五、攻めて、溜めて(我慢して)打つこと。

これらを念頭に審査に臨んだところ、立ち合いにおいて一切緊張や気負いが無く、冷静にいられたと感じております。

特に、お相手いただいた方に対しては、「攻めよう・打とう」という気負いが無く、ただ冷静に相手の動きを観ることができました。

こうした結果、立会中、初めて相手の表情が変化するのが見えたためそこに打ち込んだところ初太刀が一本になったと感じました。

初めての受番で合格をいただいたことは奇跡と感じております。今後は、名実ともに段位に相応しい剣道が身につくよう精進する所存であります。

最後に、コロナ禍が早急に収束し、何の気遣いなく稽古ができる日が来ることを切に祈念して終わります。

六段合格について



佐藤 賢人

8月22日に新潟県上越市で行われた昇段審査において六段に合格することが出来ました。日頃からご指導いただいた先生方はじめ、稽古のお相手をしていただいた皆様方には心より感謝申し上げます。

昨今のコロナウイルスの蔓延により、たくさんさんの大会や行事が中止又は延期となるなか、多くの感染対策をした上で昇段審査が行われました。正直、このような状況のなかで県外に受審しに行くべきかどうか非常に悩みました。しかし年齢が若い今の自分の実力を試す良い機会だと思い、受審を決めました。コロナ対策として、面マスクとシールドを装着しての剣道にしたいへん苦勞致しました。最初は呼吸もしにくく、慣れない環境での稽古に戸惑いもありました。稽古をする時間も限られるなかで、短く集中して身の濃い稽古をするように意識しました。普段から先生方には「自分から

攻めて打つばかりでなく我慢して溜めて、相手の出頭を捉えるような技も覚えなさい。」と指導されておりました。思い返すと不合格となった2月の長野県での昇段審査では、相手のことを考えず、自分から打っていくばかりで、理にかなった技が全くない立会いになってしまいました。2月の受審以降、普段の稽古で打ち急ぎをしないように我慢して一足一刀の間合いに入り、溜めをつくってから技を出すように心掛けました。先生方に掛かる稽古で実践していくうち、近い間合いでも恐怖心もなく、我慢して技が出せるようになったと思います。今回の立会いでは自然と緊張もせず、適度な緊張感で臨むことができました。一足一刀の間合いまで我慢して、溜めを作ってから技を出し、全ての技を打ち切る意識を持って最後まで立会いを行うことができましたと思います。決して打ち急ぎすることなく、余裕を持って自分の剣道ができました。このようなコロナ禍の中で合格できたことは自分にとって大きな自信となりました。これから、もつと上の段位を目指して稽古を続けていきたいと思えます。

最後に少しでも早くコロナが収束し、普段通りに稽古、試合ができる日がくるのを心から願っております。



令和3年度各賞受賞者

◎全日本剣道連盟表彰
「有功賞」

向島 偕 先生
吉田 雅宏 先生

「少年剣道教育奨励賞」

新山剣道スポーツ少年団
有武館矢島道場

◎秋田県剣道連盟表彰

「幼少年指導奨励賞」

秋田市剣道連盟
(港剣志館)

布施 修 先生

秋田県道場連盟

(男鹿なまはげ道場)

柏木 亮 先生

令和2年度各賞受賞者

◎全日本剣道連盟表彰

「有功賞」

菅原 孝雄 先生

「少年剣道教育奨励賞」

昭和剣道スポーツ少年団

◎秋田県剣道連盟表彰

「功労賞」

似鳥 勇一 先生

「幼少年指導奨励賞」

湯沢雄勝剣道連盟

(西馬音剣道スポーツ少年団)

黒澤 長栄 先生

秋田県道場連盟

(洗心館)

大西 健 先生

令和3年度称号、六・七段合格者

【剣道】

範士

「京都」2021年5月3日

小松 誠(秋田市)

錬士

「京都」2021年5月3日

玉内 博美(鹿角)

七段

「京都」2021年4月30日

那須 正人(由利本荘に)

「新潟」2021年8月21日

工藤 勇樹(秋田市)

佐藤 邦男(秋田市)

「東京」2021年11月24日

田山 恵子(大館北秋)

六段

「新潟」2021年8月22日

佐藤 賢人(男鹿南秋)

伊藤 智博(秋田市)

宇佐見昇平(秋田市)

「東京」2021年11月20日

石崎 諒(大館北秋)

【居合道】

教士

「京都」2021年5月3日

内田 幹夫(男潟南秋)

七段

「新潟」2021年7月2日

戸田 愷章(横手市)

六段

「東京」2021年11月7日

黒澤 直樹(秋田市)

沓澤 辰雄(大館北秋)

「新潟」2021年7月2日

赤坂 朋美(鹿角)

令和2年度称号、六・七段合格者

【剣道】

教士

「京都」2020年5月6日

中村 卓道(大曲仙北)

「東京」2020年11月24日

目黒 大祐(秋田市)

佐藤 文法(大館北秋)

菅原 勇一(秋田市)

藤本 学(秋田市)

植田 厚(由利本荘に)

東海林 斉(秋田市)

渡部 良浩(湯沢雄勝)

宮腰 信義(大館北秋)

西村 誠志(大曲仙北)

登利屋静雄(秋田市)

杉山 忠幸(秋田市)

渡邊 壽男(秋田市)

錬士

「京都」2020年5月6日

【居合道】

錬士

〔京都〕2020年5月3日
栗澤 秀明(大館北秋)

〔長野〕2021年2月21日
伊藤 一孝(男鹿南秋)

六段

〔京都〕2020年4月30日
筒井 洋美(秋田市)

七段

小坂 伸悦(横手市)
榊原 賢(湯沢雄勝)
瀧田 毅(秋田市)

和泉慎太郎(横手市)

藤原 淳逸(大館北秋)

西根 義明(大曲仙北)

金 杏奈(大館北秋)

鷺谷 翼(男潟南秋)

鷺谷 和(男潟南秋)

金森 康臣(秋田市)

佐々木祐輔(湯沢雄勝)

安藤 謙(由利本荘に)

山中 大輔(湯沢雄勝)

丹尾 覚(湯沢雄勝)

山崎 洵(能代山本)

〔東京〕2020年11月24日

黒澤 忠利(湯沢雄勝)

渡会 満(男鹿南秋)

羽生 剛(秋田市)

齋藤 竜一(由利本荘に)

地方青少年武道錬成大会
令和3年11月13日(土)~14日(日)



県小学生強化練習会



範士号授与される いい師匠に恵まれた



小松 誠

秋田県道連盟
副会長

令和3年5月「範士」に合格。一番に思うのは師匠の教えと感謝である。

大館三中時代は、戦争で片手片足を失った宮崎広治先生から初めて剣道を学んだ。1年生の夏過ぎ、防具を着

け始めた頃、「誠、打った後速く、せー」の言葉が最初の教えだった。これはどの段位に挑戦する際にも重要なことであつた。また、中学2年時、宮崎先生

とご縁があつたアメリカ剣道の草分け「ゴードン・ワーナー先生」(沖縄戦で右足を喪失)との交流が始まり、中学三年時、三沢基地で60〜70人のアメ

リカ軍人を前にして、お2人の先生と宮崎先生の御長男徹さんと私と4人で、基本打ちや稽古のデモンストレーションを行った。観客がスタンディングオベーションで盛り上がる光景が未だに心に残っている。

秋田高校時代よりご指導いただいた岩谷文雄先生は、中心を取り真ん中を割っていく指導で「竹刀の先から五本の指が出るように、相手の竹刀をか

き混ぜるように」と表現されていたことが印象に残っている。後に、自分たちの「高校総体全国優勝」の勝因を伺うと「お前たちは基本ができていた。だから色々なことができたんだろうな」と仰っていた。

東海大学時代は、井上正孝先生、小柳津尚先生、橋本明雄先生、網代忠宏先生によく鍛えられた。さらに、大学時代の皇宮警察、東海大高輪台高校勤務時代の月一度の日本武道館等数々の稽古でお願ひした先生方から成長に繋がる多くの教えや「気づき」があつた。

八段受審前、橋本先生より手紙をいただき「腹から力を抜くな」「出ばなの前(兆)しを見つけれ、また内山真先生より足の左右の位置、肘の張りについてご指導をいただいた。八段へ挑戦する時期には、岩谷先生と奥山先生が亡くなられており、内山先生から一番多く貴重な教えをいただいた。

ところで、全日本選手権初出場の秋田県予選で、当時勤務の秋田北中学校剣道部の生徒達が応援に来ていた。その眼差しに触れ「負けられない」と強く思った。教え子達や一般の方々との稽古で助けられたり学んだりすることも多くあつた。これらの教えの積み重ねで「今」があり、このような「結果」に繋がっている。

今後とも精進していきたい。

令和2年度
春の叙勲
瑞宝双光章
伊藤 碩士先生
令和2年7月22日(水)スポーツ科学センターにて叙勲授与式が行われました。



広報委員会からお知らせ

各都市で行われている行事や大会結果などをホームページに掲載したいと考えております。記事の内容や写真などを下記連絡先まで送ってください。

(連絡先)広報委員会 鹿子澤 浩美
E-mail: shukenren@gmail.com

編集後記

2020年4月の1回目の緊急事態宣言から1年8か月が経過し、感染状況が驚くほど落ち着きをみせている今日、この頃、2年ぶりに広報誌を発行することができ、嬉しく思っております。

この間、感染対策をしながらも稽古に励んできた成果を、秋田商業のインターハイ団体準優勝を始め記事として多数掲載することができました。

しかしながら、新変異株の「オミクロン株」の国内感染者の初確認など、なかなか「コロナ以前の世界」に戻ることができない状況です。そうした中でも感染対策をしっかりと施しながら秋剣連70周年に向けてみんまで、稽古に励んでいきたいものと思っています。

編集

秋田県剣道連盟

- 高橋 亮 芳谷 正人
- 鹿子澤浩美 辻 文彦
- 柏木 亮 船越 俊幸
- 糸井 一保 筒井 洋美
- 橋本 文子 岩船 志保
- 目黒祐美子 長沢 緑